

会議録（要点筆記）

会 議 名	まいばら協働事業提案制度 平成24年度実施事業報告会
開 催 日 時	平成25年6月21日（金）午後6時00分～午後8時00分
開 催 場 所	米原庁舎 2A会議室
出席者および欠席者	<p>【出席者】</p> <p>審査委員会：今川委員長、山田副委員長、山本委員、中村委員、鹿取委員、北村委員、高橋委員、池田委員、要石委員、坪井委員</p> <p>事業発表団体：まいばらフリーペーパー川瀬代表、Myばらプロジェクト本田代表、米原IT推進部松崎部長、伊吹の天窓実行委員会早川代表。他各団体メンバー</p> <p>担当課：北川主事（商工観光課）、本田センター長（米原市民自治センター）、中寫主任（広報秘書課）、土川主任（政策調整課）</p> <p>【事務局】山田政策調整課次長、西村政策調整課長補佐、坂主査、三輪主任、関沢主任</p> <p>傍聴：10名</p>
議 題	まいばら協働事業提案制度平成24年度実施事業の4事業について事業報告と意見交換会
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	各事業の報告と、意見交換のため、結論や決定事項は無いが、審査委員長、副委員長からは、それぞれの事業の自己評価にもみられる協働事業の実施プロセスを大切に、様々な主体が連携し、繋がるきっかけとなる協働事業を今後も続けて欲しいとの言葉を頂いた。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	<p>★本日の進行について【事務局から】</p> <p>・米原市自治基本条例第2条では「協働」を、「まちづくりに関する役割分担に基づき、市民、事業者等および市が相互補完的に対等な立場で連携及び協力を進めることをいう」と定義づけている。</p> <p>この考えのもと協働提案制度は市民と市が協働事業として協力して解決していくことで、「公共サービスの質の向上」「市の既存事業の見直し」「職員の協働意識の構築」を目的としている。</p> <p>昨年度平成24年度は4つの事業を実施。</p> <p>今日は審査委員をお招きして実施団体から各事業の報告をしていただく。</p> <p>本日は審査ではなく、意見交換が主旨</p> <p>各事業、10分報告、15分意見交換、各団体トータルで30分以内を目安。</p> <p>最後に委員長、副委員長から総評を頂く。</p>

★各実施団体からの報告と意見交換

1. 米原のタウン情報誌「まいスキッ！」発行

／まいばらフリーペーパー

【報告概要】

- ・平成24年度は準備号の0号を12月に発刊。8ページ。
- ・広告は米原の事業者さんのPRのために。いろんな業種で。
- ・全戸配布出来たことが好評につながった。「まいスキッ！」を見てお店に行って頂いたという声を多数聞いている。
- ・メンバー全員が仕事を持っているので、時間を作って各自が出来る範囲で活動

・今後は協力店を市外にもっと増やしていきたい。

【意見交換】

・多くの広告が掲載されているが、広告は誰が主体で集められたか。
→広告は団体で集めた。米原に特化したフリーペーパーが無いので広告が集まったのだと思う。

・米原だけではもったいない。今後の工夫は。

→基本は今後も米原を紹介する。ベースは米原の市民が使いやすいように。市外の方もマップなど楽しめるように、観光の側面を。市民の方が米原を知らない。市内の人に市内を知ってもらい、買い物をしてもらい、遊んでもらいたい。これがベース。だから全戸配布に意義がある。

・今後外部からの評価、読者、市民からの声の吸収方法は。

→今はメンバーと市民の知り合いからの情報に頼っている。ゆくゆくはホームページを立ち上げたい

・欲を言えば活字が小さい。活字離れを意識して。購読層はどの層を意識しているか？

→全戸配布なので市民全体に読んでいただくことが希望。

ファミリー層を意識しているのは確か。子育てしやすい、暮らしやすいというイメージを伝えたい。

・市の広報で出来ない思いきったレイアウトや写真使いを続けてほしい。息の長い取組にしてほしい。続けていく中で米原市の課題やかけている部分を取り上げて欲しい。

・市内に全戸配布されることを利点に小さい業者も取り上げてほしい。事業者のモノを売るための広告だけでなく、事業者が情報発信できる媒体であり続けてほしい。

→市内で頑張る、小さな業者さんをどんどん拾っていききたい。

2. My ばらで米原のまちづくり／My ばらプロジェクト

【報告概要】

- ・公共施設などへのバラの植栽を通じて、まちの中に憩いの空間づくりと誰もが参加できるまちづくり活動を進める。
- ・10月27日に市役所庁舎への植栽イベントを開催。参加者親子からは、自分の植えたバラが市役所で咲くのが楽しみだという声を頂いた。3月にラティスを制作した。
- ・1月にはMy ばらブローチでブーケ作りの講習を実施。5年生とその保護者が卒業生に贈るために製作。関係者からも好評。これをきっかけに市内の小中学校、幼保育園にこの活動を広げていきたい。
- ・市との協働が周知され、小学校との連携や聖泉大学との連携も生まれた。
- ・今後も今ある米原の魅力を生かして米原の発信をしていきたい。
- ・今後は人材の発掘、協力者の発掘が必要。
- ・これまでまちづくり活動に関心の無かった市民がまちづくり活動に気軽に参加できる取組を進める。

【意見交換】

- ・行政のイベントと民間のイベントとの調整が課題になっているが。→今回調整できなかった。参加された子どもさんも大変喜んでおられた。
- ・市民団体は熱心だが、行政側の協働意識が弱いと感じる。→行政に温度差があるのは確か。積極的にその低い部分を向上させていくのも団体の役割とも思っている。足しげく通う、こちらの思いを伝える、行政の思いを聞くことを積極的にやらないとうまくいかないと思っている。
- ・今後のフォローは？
→植栽は後の管理がネックになる。その分、コサージュ作りで広げたい。学校にも声をかけている。昨年は在校生が卒業生に贈ったが、卒業生が次に入学する新入生に贈る取組も学校に提案している。植栽は市内企業からもオファーがあるので一緒に取り組みたい。団体の身の丈に合った規模で。誰もが出来るまちづくりの第1歩として市民のみなさんと取り組む機会を作っていきたい。
- ・マップ作りなどで大学と連携しているので、大学の持っているノウハウを活用できる。企業のボランティア活動との連携など出来る活動が広がる。
- ・草取りや剪定のスケジュールは。

→参加いただいた市民の方をお願いするのが理想だが、基本はメンバーで行っている。

- ・ばらを育てていくのは先が長い。剪定や管理が大事だと思う。

→アフターフォローの形を会議で話し合っている。

・植えたところに植栽意図の説明看板を設置してPRしてはどうか。

・わずかな予算でいろいろ取り組まれている。0がひとつ少ないような状況で普及はなかなか難しいだろう。集落全体のまちづくりをされている例がある。自治会全体で協力していただける集落があると各家庭1苗配布しても効果が高く広がっていくと思う。出来る所と連携してはどうか。

・この制度を始めるに当たって、市民協働の視点での行政職員の意識の格差が一番心配していた部分。実践活動で学ぶ大切さ、どんどん指導していただきたい。

・コサージュを卒業生に贈る、新入生に贈る活動は、素晴らしいアイデア。子どもたちに世代を超えた繋がりを広めていってほしい。教育部としても精いっぱい応援させていただきたい。

3. 伊吹山テレビ文字放送情報のオンライン化／米原 IT 推進部

【報告概要】

・平成24年12月10日米原市公式ウェブサイトのリニューアルに併せて公開を開始。

・工夫しているところは、検索にかかりやすい用語の工夫。

・米原市関連で検索すると当サイトの情報が上位にあがってくるようになった。

・説明しきれなかった詳細情報に関連リンクを貼っている。

・カレンダー機能も搭載。今日のイベント、行事がカレンダーで確認できる。

・現在の総ユーザー数5,828人、訪問数8,200件。1日平均40人。

・サイト上での広告の掲載で運営費をまかなっている。

・文字放送の情報はウェブ上にない情報が多い。市の公式サイトにさえ無い。そういった情報をインターネット上に載せていくお手伝いをしたい。

【意見交換】

・大変期待をしている。情報量の充実。正しい情報を載せていくことが今後も大切。どんどん米原市をアピールしてほしい。中身の充実には市民も協力しなくてはいけないと思った。

→文字放送は市民向けの情報が中心なので、市外向けの情報をいかに拾うか。サイトの訪問者は1 / 4が市民の方。たまたまも想定されるが県外の方が多い。

・広げれば広げるほど負担が増えるのでは。

→作業負担は多いが、自分の勉強のために大変役立っている。SNSの力を利用して米原の魅力を広げていきたい。

・1人当たりの滞在時間は？

→約1分。平均的な時間よりやや長い。

・今後の収支の計画は。

→作業時間を考えると割に合わないが、個人的にも欲しかった情報。

「犬の予防接種」は1日に1人しか検索されないが、その需要が少ないものにも答えられたことに充実感を覚えている。

4. 伊吹の天窓／伊吹の天窓実行委員会

【報告概要】

・「伊吹の天窓イベント」は米原市の魅力と課題を「楽しみながら感じてもらう」ことを合言葉に、有機的な交流を図る機会の創出と米原市の元気づくりを目的とした里おこしイベント。

・手作り市、あおぞら食堂、コンサートなど。7月14日に実施した。

・Montebellに協力いただいている。切り絵用のテントの提供など。イベントに賛同いただき協力いただいている。

・もうひとつの取組は、草刈り、雪踏みの2大厄介事をポジティブに捉えたダンスを創作。

・雪踏みダンスの曲「イブッキ行進曲」をイベントのテーマソングにして、曲とダンスで市外へ発信している。これがどんどん広がりを見せている。今後は学校にも広げていきたい。

・イベントの実施は地元の皆さんの元気にも繋がっている。

・若者志向に偏る傾向があるが、市との協働によってそのバランスをとってもらえた。

【意見交換】

・活動の評価として、行政との意識共有ができたとのことだが、どのようにできたか。

→自分達は移住者としてここで骨をうずめたいと思っている。ただの移住イベントなら市が開催することだが、米原の魅力を私たちが

新たな形にすることでお互いの目的を達成することができた。私たちだけなら若者向けのイベントになっていたが、市と協働することで里おこしイベントとしての方向性にブレがなかったと思う。

・草刈り、雪かきは大変な負担。ダンスにしたのは思いもつかない発想で驚いた。地域の若者が地域を見直してくれるきっかけになればと思う。しかし実際は簡単にはいかない。本質の解決も目指してほしい。

→曲谷では雪かき、草刈りのボランティアを募っている。年々参加が増えている。地域の意識を変えるのは難しいが、地域外の方の持つ楽しいイメージを利用してイベントとして活用出来れば。

・新しい感覚が楽しい。収支の規模が大きい管理は誰がしているのか。

→会計担当者が管理している。

・Montebell とのコラボで、スタッフ自らのプロモーションもされている。「伊吹の天窓」で商品化などされないのか。テントの販売など実現はできないか？

→Montebell から切り絵テントの商品化の話は無いが、T シャツの販売やイベントへの協力で今年もお世話になる。

実行委員会の中でオリジナル商品は手掛けている。

★審査委員長、副委員長からの総評

【審査委員長】

- ・全ての事業で感動した。
- ・米原市民ではないが、新たな視点の協働の勉強が出来た。
- ・まいばらフリーペーパーは、行政の広報紙の紙面を奪うくらいの気持ちで。行政も民間の力を応援してほしい。
- ・他の事業も、ネットワーク力を今後も生かして下さい。
- ・コミュニティビジネスに繋げていただきたい。
- ・新たなビジネスモデルの発信もしていただきたい。
- ・協働のいろんな可能性を見せていただきました。

【副委員長】

- ・協働事業を始めるに当たっては、新たに市民が提案する事業に対して、行政職員が役割分担し、サポートできるか、それが課題。
- ・評価シートに書かれている経過から、その努力の跡が見える。
- ・この米原の協働モデルのプロセスを大事にしていきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・協働事業はお金も行政の力も入っているが、継続のために必要なことは思いを伝える手法。 ・それによって仲間が増え、賛同者が増え、その結果お金も増える。そうして日常的な協働が生れる。
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 傍聴者： <u>11人</u> <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開または非公開とした理由 ()
会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担 当 課	政策調整課 (内線91-244)